

平成25年度  
**博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要** [採択時公表]

機関名	広島大学	機関番号	15401
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> (ふりがな) (あさはら としまさ) 氏名・職名 浅原 利正 (広島大学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) (さかこし まさき) 氏名・職名 坂越 正樹 (広島大学理事・副学長(教育担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) (おかはし ひでのり) 氏名・職名 岡橋 秀典 (広島大学文学研究科・教授)		
4. 申請類型	S <複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	たおやかで平和な共生社会創生プログラム	
	英語名称	Program for creating a flexible, enduring, peaceful society	
	副題	オンサイト・リバースイノベーションを推進するリーダー	
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(文学)、博士(学術)、博士(国際協力学)、博士(工学) 付記する名称:たおやかで平和な共生社会創生プログラム		
7. 主要分科	(① 地域研究 ) (② 土木工学 ) (③ 電気電子工学 ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科・人文学専攻、 総合科学研究科・総合科学専攻、 国際協力研究科・開発科学専攻、教育文化専攻、 先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻、量子物質科学専攻 工学研究科・システムサイバネティクス専攻、社会基盤環境工学専攻		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別	※ 該当する場合には○を記入		
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名: 広島大学 申請類型: 複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称: たおやかで平和な共生社会創生プログラム)

## 15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 坂越 正樹	サカゴシ マサキ		理事・副学長(教育担当)	教育哲学・教育思想 博士(教育学)	プログラムの総括
(プログラムコーディネーター) 岡橋 秀典	オカハシ ヒデノリ		文学研究科・人文学専攻・教授 併 現代インド研究センター長	人文地理学 博士(地理学)	3コースの総括 「オンサイト・メディア」フィールド
友澤 和夫	トモザワ カズオ		文学研究科・人文学専攻・教授	人文地理学 博士(文学)	文化創生コース主任 文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
河西 英通	カニシ ヒデミチ		文学研究科・人文学専攻・教授	日本史 博士(文学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
隠岐 さや香	カキ サカ		総合科学研究科・総合科学専攻・准教授	科学技術史 博士(学術)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
佐々木 宏	ササキ ヒロシ		総合科学研究科・総合科学専攻・准教授	社会学 博士(教育学)	文化創生コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
Maharjan, Keshav Lal	マハラジャン ケシヤブ ラル		国際協力研究科・教育文化専攻・教授	南アジア地域研究 博士(農学)	文化創生コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
関 恒樹	セキ コウキ		国際協力研究科・教育文化専攻・准教授	文化人類学 博士(文学)	文化創生コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
外川 昌彦	トガワ マサヒコ		国際協力研究科・教育文化専攻・准教授	文化人類学 Ph.D 博士(社会学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
金子 慎治	カネコ シンジ		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	環境資源経済学 博士(工学)	社会実装コース主任 社会実装コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
張 峻屹	チョウ シュンキツ		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	都市・交通計画 博士(工学)	社会実装コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
藤原 章正	フジワラ アキマサ		国際協力研究科・研究科長、開発科学専攻・教授	交通工学 博士(工学)	社会実装コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
吉田 雄一郎	ヨシダ ユウイチロウ		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	開発マクロ経済 Ph.D Economics	社会実装コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
川村 健介	カムラ ケンスケ		国際協力研究科・開発科学専攻・准教授	リモートセンシング 博士(農学)	社会実装コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
川野 徳幸	カノ ノリユキ		平和科学研究センター・准教授 併 国際協力研究科・開発科学専攻・准教授	平和学 博士(医学)	社会実装コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
河合 研至	カワイ ケンジ		工学研究科・社会基盤環境工学専攻・教授	コンクリート工学 工学博士	社会実装コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
大橋 晶良	オハシ アキヨシ		工学研究科・社会基盤環境工学専攻・教授	水環境工学 博士(工学)	社会実装コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
石井 抱	イシイ イタク		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	センシング工学 博士(工学)	技術創生コース主任 技術創生コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
三浦 道子	ミウラ ミチコ		先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	デバイス物理学 博士(理学)	技術創生コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
東 清一郎	ヒガシ セイイチロウ		先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	半導体工学 博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド

(機関名: 広島大学 申請類型: 複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称: たおやかで平和な共生社会創生プログラム)

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
Mattausch, Hans Jurgen	マタウシュ ハンス ユルゲン		先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	集積回路 理学博士	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
横山 新	ヨコヤマ シン		ナノデバイス・バイオ融合科学研究所・教授 併 先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	半導体工学 工学博士	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
角屋 豊	カドヤ ユカ		先端物質科学研究科・量子物質科学専攻・教授	光エレクトロ ニクス 博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
辻 敏夫	ツジ トシオ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	生体工学 工学博士	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
西崎 一郎	ニシガキ イチロウ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	システム工学 博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
餘利野 直人	ヨリノ ナオト		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	電力システム 工学 工学博士	技術創生コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
中矢 礼美	ナカヤ レミ		国際センター・准教授 併 教育学研究科教育人間科学専攻(教育学専攻兼任)・准教授	比較国際教育 学 博士(教育学)	教育モデル化と移転事業
櫻井 里穂	サクライ リホ		教育開発国際協力研究センター・准教授 併 国際協力研究科・教育文化専攻・准教授	教育開発・国 際比較教育学 博士(教育理 論政策学)	教育モデル化と移転事業
Eaton, David	イートン デビッド		テキサス大学オースティン校リンドンジョンソン公共政策大学院・教授	合意形成 Ph. D(環境工 学・地理学)	交渉術論(共通科目) 「公正な資源管理システム」フィールド 支援
Kamal, Abser	カマル アブザル		グラミンシャクティ・マネージングディレクター	農村開発 修士(海洋生 物学)	バングラデシュ拠点設置支援 「あかり教育」フィールド支援
Pokharel, Govind Raj	ポクハレル ゴビンド ラジ		ネパール代替エネルギー促進 庁・代表執行責任者	エネルギー経 済政策学 Ph. D(エネル ギー経済政策 学)	ネパール拠点設置支援 「オンサイト・メディア」フィールド支 援
Virji, Hassan	ヴァイルジ ハッサン		International START Secretariat・事務局長	気候変動リス ク管理等の統 合的研究 Ph. D(気象学)	教育モデル化・移転事業 「観て測る防災社会」フィールド支援
Aquitania, Victorino	アキタニア ヴィクト リーノ		ICLEI・東南アジア地域事務所長	行政学 行政学修士	インド拠点設置支援 社会実装
岡本 卓慈	オカモト タクジ		株式会社計測リサーチコンサル タント・代表取締役社長	計測工学 工学士	「観て測る防災社会」フィールド支援
川本 一之	カワモト カズユキ		株式会社中国新聞社・代表取締 役副会長	マスメディ ア、企業経営 文学士	「オンサイト・メディア」フィールド支 援
山田 守	ヤマダ マモル		エルピーダメモリ株式会社・広 島工場人事・総務部・エグゼク ティブプロフェッショナル	半導体製造 工学修士	「どこでも医療」フィールド支援
森山 昌幸	モリヤマ マサユキ		株式会社バイタルリード・代表 取締役	地域計画 博士(工学)	「ユビキタス交通」フィールド支援
藤山 浩	フジヤマ コウ		島根県中山間地域研究セン ター・研究統括監 島根県立大 学連携大学院・教授	中山間地域マ ネジメント 博士(マネジ メント)	「どこでも医療」フィールド支援
西宮 宜昭	ニシミヤ ノブキ		独立行政法人国際協力機構中国 国際センター・所長	建設マネジメ ント 修士(工学)	「公正な資源管理システム」フィールド 支援
若井 英二	ワカイ エイジ		中国経済産業局長	地域経済 法学士	「あかり教育」フィールド支援

(機関名: 広島大学 申請類型: 複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称: たおやかで平和な共生社会創生プログラム)

**リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性**

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

**【概要】**本プログラムは、これまで行われてきた画一的教育の反省から生まれた。学生の個性が尊重され、学生が自らの可能性を見出し、様々な形で社会へ貢献していく道筋を発見していく手段として、複合的な視点でのみ解が見つけられる多文化共生をターゲットとした。これにより、広島大学が強みをもつ人文・社会系の分野と科学技術分野を融合し、文化が牽引する「たおやかで平和な共生社会創生」に貢献できる人材を養成する。時間と空間の広がりによって多様に育まれた地域独自の社会と文化を深く理解し、それをふまえて地域が抱える課題の克服のために、必要な先端科学技術をその地で見出し(開発し)、育む(社会実装する)教育を実施する。このため、実際に文化を育ててきた地に寄り添ったフィールドワークを骨格とした**提案支援型教育**を実施する。輩出される学生は、多角的思考、自主性、具現化する実行力、無から生み出す創造力を兼ね備える。これらはあらゆる社会でリーダーに求められる素養と考える。

本プログラムは、「戦争」や「核」といったキーワードでこれまで築かれてきた広島大学の平和教育をさらに広い分野へと拡大・発展させ、平和を希求する大学の継続的取組みの一環に位置づけられる。文化の自立・発信は単に共生に留まらず、異なる文化の相互作用によるシナジー効果を生み出し、また先端科学技術と地域文化とをシンクロさせることによって、従来とは異なる形の新たな産業創生にも結びつくと考えられる。

**【特色】**近年、いかに辺境の途上国の寒村深くに入り込むとも携帯電話で通信する村人に出会い、小さな太陽電池パネルで発電されたわずかな電力でもあかりに変換できるLED電球の普及によって、単調で危険な長い夜が豊かな文化を創生する有意義な時間になりつつある。先進国で開発された半導体を基盤とする先端科学技術が期せずして途上国の貧困社会をも劇的に変貌させる可能性を示している。こうした可能性を**より困難な課題を抱える地域に寄り添い、そのニーズから発想してより効果的に社会を望ましい方向へ導くような課題解決型技術革新・社会創生のあり方が「リバースイノベーション」**である。

本プログラムでは、多様化する文化・社会への科学技術の解は一つではなく、それぞれの地域に見合った様々な技術が必要であるという立場をとる。これは、これまで先端科学技術開発が国際的な統一規格を目指してきたのとは対照的なスタンスである。その地の文化を理解するだけでなく常に新たな進化を遂げるための文化創生を繰り返しながら、適切な先端科学技術を確実に**オンサイト・ソリューションへと適用・実装できる人材グループ**を育てる。文化が先導する科学技術の発展に解決策を求め、これをグループとして具現化するために不可欠な3つのタイプのリーダーを育成する。具体的には、(1)社会・環境変化や技術革新に適応するよう文化を創生する人材、(2)条件不利地域の文化と社会環境のおかれた課題に適応するよう科学技術を創生する人材、(3)創生される多様な地域文化と新たな科学技術が均衡するよう社会に実装する人材、である。そのために、博士課程D1-2では国内外の複数の条件不利地域を訪問し、博士課程D3-5では長期に現地滞在し、地域に寄り添ったフィールドワークを中心とする学習機会を提供する。この際に、文理を横断する異なる専門の学生で構成したグループを編成し、6つのプロジェクト課題の解決に取り組む。こうした人材は、国際政治・行政・教育においてたおやかな平和共生社会の実現に直接貢献するだけでなく、産業界におけるリーダーとしても活躍しようと考える。

**【優位性】**本学では1994年に国際協力研究科を発足させ、国際協調を促進する学問領域を先導し、グローバルなフィールド型実践教育を通して開発途上国の自立を育むリーダー育成に多くの実績を上げてきた。本プログラムはこの研究グループを核として、国内・外の地域文化・社会の研究に顕著な業績を有するグループと、半導体、情報通信分野で世界をリードしている理工学系グループを中心として推進する。

フィールドとしては、これまでに実績のある条件不利地域を取り上げる。国内では**中四国の過疎地域**、国外では**インドを中心とする南アジア**を想定している。インドを中心とする南アジアは文化的にきわめて多様である一方で貧困や差別に苦しんでいるが、この地域に対して、平和を志向する広島大学のプレゼンスは既にきわめて高い。本プログラムではこれらの地に拠点を置き、広島との強力な連携を立ち上げる。

広島大学は2011年に半導体コンソーシアムを立ち上げて、様々な産業界との強力な連携を実施している。これを通して本プログラムで必要となる科学技術面からの支援のみならず、産業界の立場からの教育を担っていただく。学術研究支援グループの活動を通して、産業界と協力して日本発の国際標準化を数々実現している実績は本プログラムでも遺憾なく発揮される。また平和を発信する地としての自他ともにある認識は、学生達が現地に赴いて活動する際に、大きな心のよりどころになることは自明である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

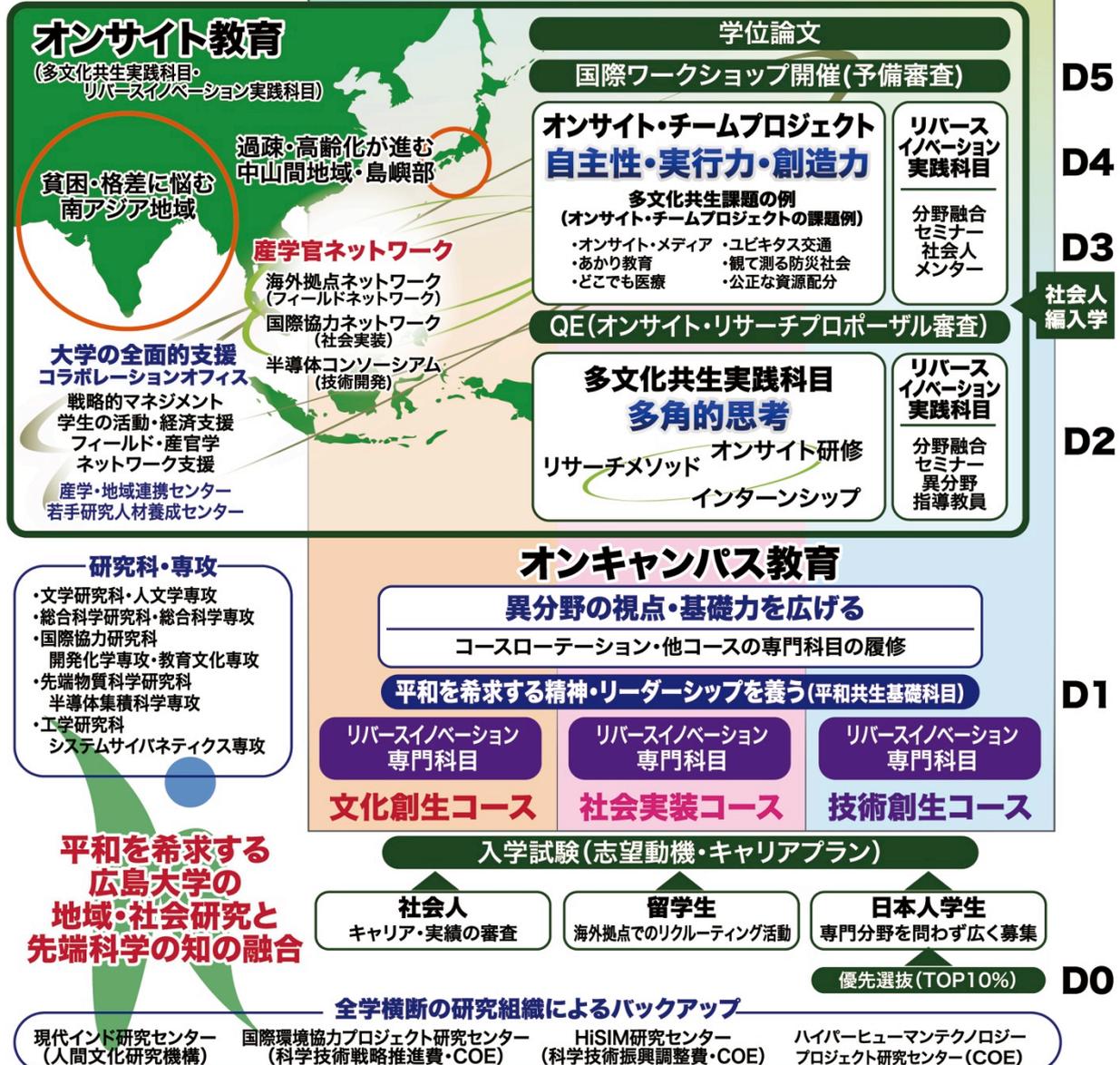
# たおやかで平和な共生社会創生

世界の産・官・学へ  
(国際機関・政府機関・産業界・大学/研究所)

## オンサイト・リバーズイノベーションの推進リーダー

提案支援型教育の  
世界への発信

文化を創生する人材    文化と技術を融合し社会に実装する人材    技術を創生する人材



平和を希求する  
広島大学の  
地域・社会研究と  
先端科学の知の融合

機 関 名	広島大学
プログラム名称	たおやかで平和な共生社会創生プログラム
<p data-bbox="185 315 336 344">〔採択理由〕</p> <p data-bbox="185 367 1433 763">本プログラムは、広島大学で長年にわたり取り組んできた「平和教育」をさらに拡大発展させる点に特色があり、文化が牽引する地域発のイノベーションを目指すところに従来には見られない斬新さがある。アジアとの共生を具体化するために、内発的な発展モデルをもとにして日本の高度な技術を考え直し、利用していこうとする方法は、意欲的でオリジナルなプログラムといえる。特に、条件不利地域のイノベーションを具体的に実現することのできる異分野融合、それも文理融合型の新しいリーダーを養成しようとする点は、特色あるすぐれたプログラムと評価できる。また、大学の地元である中四国における「条件不利地域」と、これまでも大学とつながりが深く、連携の実績もある南アジアの「条件不利地域」という、国内外の複数地点に焦点をあてたプログラムとなっている点は、ユニークな特徴として評価でき、その成果が期待できる。</p> <p data-bbox="185 781 1433 1014">人材育成面では、オンキャンパスとオンサイトにおいて 3 つのコース（文化創生、技術創生、社会実装）の専門教育と合同教育がなされる計画であるが、とりわけ、合同のオンサイト・チームプロジェクトを取り入れている点は優れている。また、オンサイト教育の内容が具体的で実現性があり、全体的に学生が学んでいく過程が明確にイメージできている。さらに、提案支援型教育の導入により、異分野の学生同士が刺激し協力し合うと共に、各学生が主体的に研究を計画し実践できる環境を整えようとしている点も評価できる。</p> <p data-bbox="185 1025 1433 1258">教育実績・資源については、参加教員、大学院生のこれまでの研究実績、留学生の受け入れ実績も十分にあり、民間企業の参加と協力も得られている。主体になる研究科のみならず、現代インド研究センター、国際環境協力プロジェクト研究センター、HiSIM 研究センター、ハイパーヒューマンテクノロジープロジェクト研究センターなど、文系理系双方の実績ある機関も大学院リーディングプログラム機構の下、プログラムへ参画しているので、国際的にみても高い水準の研究実績もあると評価できる。</p>	